

平成30年度学校自己評価システムシート (さいたま市立浦和高等学校)

S47

目指す学校像	中高一貫教育の特性を生かした特色ある取組を進めるとともに、高いレベルの教育活動を積極的に展開し、明るく活力があり、高い志を持った生徒を育成する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 中高一貫教育校の特性を活かした質の高い学びを展開する。 「文武両道」の理念に立ち、バランスの取れた教育活動を進めるとともに、第1志望の進路を実現する。 国際理解教育の充実と開かれた学校づくりの推進を図る。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	17名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	中高一貫教育校の特性を活かした多様な教育活動を進め、内進生と高入生が相互に刺激となり、進学実績の向上につながる一方、特に内進生の学力差をいかに縮小させるか、底上げを図るかが課題である。 学習指導要領の改訂や高大接続改革等を踏まえ、目指す生徒像、目指す学校像を明確にし、3年間、6年間を見通した抜本的な教育課程の見直しと、主体的な学びや4技能の育成など、授業の工夫改善に取り組み、質の高い学びを充実させる必要がある。更に、教員の研修を奨励し、指導力の向上を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育の特性を活かした指導の充実。 中・高連携体制の一層の強化 	<ol style="list-style-type: none"> 中・高合同での教育活動の充実 内進生・高入生の教育課程を見直し、合同での授業展開を検討。 中高一貫教育の特性を活かした教育課程の検討と次世代シラバスの完成 	<ol style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「中高連携がうまくいっているか」の肯定的回答が前年比上昇したか。 教育課程の見直しが進んだか。 次世代シラバスが完成したか 	<ol style="list-style-type: none"> 保護者アンケートは75.9%で前年比-1.5Pとなった。 ④進学校に相応しい高校教育課程の検討をプロジェクトチームで検討を始めた。 次世代シラバスは完成した。 英語の授業にディベートを取り入れるなど教科の工夫を実施 生徒は70.2%で前年比+4.2P上昇した。「授業や補習は実力が付くものとなっているか」についても80.4%で前年比+0.6Pの上昇であった 	B
2	生徒や保護者の期待と要望に応える高いレベルの授業の実践と、進路指導部と学年が連携した計画的で戦略的な進路指導を展開し、難関大学等への進学実績の向上を図り、県民の期待に応える必要がある。特に、入学当初に8割を超える国公立大学進学希望を諦めさせない、第1志望への進学を実現する高い志を育て、学習支援を積極的に行う必要がある。 「文武両道」を実現し、部活動や学校行事へ積極的に取り組み成果を上げている。一方で、行事の見直しや削減、取組方法の改善など、生徒の要望に応えつつ働き方改革なども踏まえ、より実効的で効果的な実施となるよう検討する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的・戦略的で組織的な進路指導の実施 生徒・保護者と連携した、個に応じた指導の充実 部活動や学校行事の奨励と積極的支援。 働き方改革を踏まえ、部活・行事等のバランスの取れた在り方の検討 	<ol style="list-style-type: none"> 進路部と学年が連携し、計画的で戦略的な進路指導を進め、第1志望を諦めさせない指導を実施。 学習マラソン、個別指導や補習授業の充実、生徒や保護者への進路関連情報の的確な提供。 部活動の推奨と積極的活動支援並びに部活動がイベントの検討と作成 生徒主体の学校行事の充実と行事の精選に向けた検討。 	<ol style="list-style-type: none"> センター試験の900点満点受験者数が増加したか。 第1志望の進路を実現した割合が増加したか。また、国公立大学や難関大学、医学部などの合格者数は増加したか。 部活動での顕著な活動実績があったか。 行事の精選が図られたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①②900点満点受験者175名で54%。前年の157名43.1%から大幅に上昇。第1志望の進路実現率は未定だが、「第1志望を諦めさせない進路指導」は浸透している。 インター外部の世界大会・吹奏楽部の西関東大会出場その他、サッカー部やハンドボール部の優秀選手など運動部も活発に活動し成果を上げた 文化祭では昨年度より1000名以上多い6250名が来校し大盛況。行事の精選は継続課題 挨拶、校則遵守、生活規律、ルールやマナーいずれも前年比上昇した。 	A
3	姉妹校との交流や海外修学旅行、留学、部活動選抜選手の海外遠征など、多彩な国際交流活動を展開している。一方で本校独自の戦略的な海外研修の実施など、生徒や保護者のニーズと安全を確保前提に、広い視野と高い英語力、国際感覚を身につけた、国際社会に貢献できる人材の育成を一層追求する必要がある。 ホームページの充実や土曜公開授業、学校説明会、中学校訪問、地域連携事業などの機会を活用し、本校の教育活動を積極的に発信し、生徒募集の充実を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育の積極的な推進と安全確保の徹底 積極的な学校情報の発信と地域連携の充実 生徒募集の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 姉妹校交流、海外修学旅行、インターンシッププログラム等多様な国際交流機会の提供と安全確保の徹底。 ホームページでの学校情報の積極的な発信 地域連携活動の推進と充実。 土曜公開授業や学校説明会の内容の充実と中学校訪問及び上級学校訪問などにおける生徒募集活動の積極的実施。 	<ol style="list-style-type: none"> 国際交流事業参加生徒の満足度は高かったか。また、事故なく事業が実施できたか。 ホームページ閲覧件数は上昇したか 地域と連携した取組が行われたか。 土曜公開授業、学校説明会の参加者数は増加したか。更に1月発表の志願倍率が前年比上昇したか。 	<ol style="list-style-type: none"> 姉妹校、最先端インターンシッププログラム(20名参加)いずれも事故なく実施し生徒の満足度は高かった。鄭州市からの訪問受け入れなども実施できた。 ホームページ閲覧数323,022件で昨年比8,043件増加。 ④上級学校訪問の受け入れ数増加、土曜一般公開来校者1023名で前年680名から倍増した。志願倍率(12月調査)も2.5倍で前年より上昇し、県内で最高倍率を記録した。 	A

学校関係者評価
実施日 平成31年 2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 次世代シラバス検討委員会の提案を基に教育課程プロジェクトチームには大宮国際中等教育学校との差別化を図って欲しい。 質の高い学びの展開は、やりきっている印象を受けている。限りなくAに近い評価と考える。県内から期待されているので引き続き取り組んで欲しい。 アンケートの中高連携の設問は、10年前と変わっていないので、高入生の大多数の保護者にはピンとこない。質問内容を具体的にした方がよい。 海外大学への進路も視野に入れているようだが、9月始まりなので保護者としてはためらう面もある。
<ul style="list-style-type: none"> 第1志望を諦めさせない進路指導や高大接続改革に向け、主体的に学び表現する力を養っていることを評価する。 生徒と先生の時間の確保が大事。働き方改革に照らし、外部コーチを導入するなど、後援会としても応援したい。 また、そのための人材確保が課題となる。 先生方も部活動に割く時間をつくるために日中をどのように効率化していくか考え、仕事を見直す他、仕組みを変えるなどの対応が必要かもしれない。 文化部の部室棟の寒さ対策を要望したい。エアコンの設置をお願いする。 教育相談において、SC、SSWとの連携がなされ、個々の生徒の状況を把握している。
<ul style="list-style-type: none"> 最先端インターンシッププログラムは、金額が高いのに驚いた。経済的な面での壁がなくなるとよい。 ホームページの閲覧件数が増えたことはいい。ただ、ある部活動はまめに更新しているが、ある部活動は一年間写真が変わっていないということが見られる。 高大接続についてはいろいろ情報を頂いており不安はないが、塾は付属高校を勧めている。高大接続の取組の情報発信をさらに充実させることが必要だ。